



Corel[®]
PaintShop[®] Pro

導入ガイド

はじめに

このガイドは、各ページの右の列にメインのコンテンツが含まれ、左の列には次のカテゴリの情報が記載されています。



定義 — 用語または概念を説明します。



ヒント — ショートカット、バリエーション、利点など、役立つ詳細を表示します。



注 — 指定したトピックまたはタスクに関する追加の詳細を表示します。



警告 — 指定されたトピックまたはタスクに関する重要な詳細を表示します。

左の列には、メモを取るためのスペースもあります。

このガイドは、Corel® PaintShop® Pro 2023 (Corporate Edition および Education Edition) をできるだけ早く簡単にネットワークに導入できるようにすることを目的としています。

内容

ステージ 1: 展開の準備.....	2
ステージ 2: サーバーイメージの作成.....	3
ステージ 3: ソフトウェアのインストール.....	5
ステージ 4: インストールの保守.....	15

参考資料

ソフトウェアの導入がはじめての方や、Corel ソフトウェア製品の導入に関するより基本的な情報が必要な場合は、『Corel® Beginner's Guide to Network Deployment』を参照してください。このガイドのコピーは、Corel® サポート サービスの担当者にご請求ください。

詳細については、以下の Web リソースを参照してください。

Web リソース	説明
Corel® の Web サイト: www.corel.com	Corel Corporation とそのソフトウェア製品のポートフォリオに関する情報
Corel® サポート サービスの Web サイト: www.corel.com/support	製品の機能、仕様、可用性、サービス、および技術サポートに関する情報
Corel® ナレッジベース™: www.corel.com/kb	Corel サポート サービス チームが執筆した記事の検索可能なリポジトリ

ソフトウェアのインストールに使用される Microsoft Windows Installer (MSI) テクノロジーのヘルプについては、Microsoft の Web サイトを参照してください

ステージ 1: 展開の準備



このガイドで使用される「ネットワーク」という用語は、情報を交換する目的で相互に接続されている 2 台以上のコンピュータを意味します。



ワークステーションは平均的なユーザーが作業するコンピュータであり、サーバーはネットワークの共有リソースを管理するコンピュータです。



Windows 11 バージョン 22H2 では、スマートアプリコントロールを [オン] に設定しないでください。デフォルト設定は「評価」です。Smart App Control の現在の状態を確認するには、タスクバーの [Windows セキュリティ] アイコンをクリックし、[App & browser control] アイコンをクリックして、[Smart App Control 設定] をクリックします。



ワークステーションユーザーのアクセス権をより簡単に管理するには、グループポリシーオブジェクト (GPO、または「システムポリシー」) を使用できます。5 ページの「グループポリシーオブジェクトによる権限の管理」を参照してください。

ソフトウェアをネットワークにできるだけスムーズに導入するには、次の操作を行って準備します。

- ソフトウェアのシステム要件を確認します。
- サーバーを準備します。
- ワークステーションを準備します。

詳細については、以下を参照してください。

ソフトウェア要件の確認

まず、サーバーとワークステーションがソフトウェアの対象であることを確認してください。以下を参照してください。

- Readme ファイルまたはソフトウェアの特別な手順(利用可能な場合)
- Corel の Web サイトの製品情報ページ (www.corel.com)

サーバーの準備

- サーバーがソフトウェアの最小システム要件を満たしていること、およびインストールに十分な空きディスク容量があることを確認します。
- サーバー上のオペレーティングシステム (Windows 64 ビット OS のみ) が最新のサービスパックとセキュリティパッチで更新されていることを確認します。
- サーバー上にソフトウェアイメージを作成するための適切な権限があることを確認します。管理しているドメインのローカル管理者または管理者であり、サーバーの場所に対する読み取り/書き込みアクセス権を持っている必要があります。

ワークステーションの準備

- ワークステーションがソフトウェアの最小システム要件を満たしていること、およびインストールに十分な空きディスク容量があることを確認します。
- ワークステーションのオペレーティングシステム (Windows 64 ビット OS のみ) が最新のサービスパックとセキュリティパッチで更新されていることを確認します。

サーバーイメージからソフトウェアをインストールするユーザーに、適切な権限があることを確認してください。サーバーイメージをワークステーションにインストールするユーザーには、管理しているドメインのローカル管理者または管理者であり、サーバーの場所に対する読み取りアクセス権を持っている必要があります。

ステージ2: サーバーイメージの作成



サーバーイメージは、「管理者イメージ」または単に「イメージ」とも呼ばれ、インストールディスクの圧縮ファイルから作成された、サーバー上に展開されたアプリケーションファイルのセットです。



コマンドラインは、必要な設定を指定できるテキストコマンドです。



ISO ファイルをマウントするには、仮想ドライブの作成に役立つサードパーティ製ソフトウェアが必要になる場合があります。または、ISO ファイルを CD/DVD に書き込み、ディスクからファイルにアクセスすることもできます。

展開の準備ができれば、ソフトウェアのサーバーイメージを作成し、そこからソフトウェアをワークステーションにインストールする準備が整います。(複数のインストール・タイプをサポートする場合は、複数のサーバーイメージ(必要な構成ごとに1つ)を作成することもできます。

内容

サーバーイメージの作成.....	3
サーバーイメージのファイナライズ.....	4

サーバーイメージの作成

サーバーイメージを作成するには、コマンドラインを実行してソフトウェアセットアップを初期化し、必要なインストール設定を指定します。

コマンドラインを実行するには

1. [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます(ショートカットキー:Windowsロゴ+ R)。
2. [名前] ボックスにコマンドラインを入力し、[OK] をクリックします。

サーバーイメージを作成するには

1. 次のいずれかの操作を行います。
 - インストールディスクがある場合は、そのディスクをCD/DVDドライブに挿入します。
 - ISO ファイルをダウンロードした場合は、ISO をディレクトリにマウントするか、WinZip® (www.winzip.com から入手可能) などのユーティリティを使用してISO イメージからサーバー上のディレクトリにファイルを抽出します。

[自動実行画面が開いたら、[終了]をクリックします。

2. 次のコマンドラインを実行します。X:は、ディスク、ISO、または抽出されたファイルが配置されているディレクトリです。

X:\Setup.exe /a

3. ユーザー名とシリアル番号(ハイフン付きまたはハイフンなし)をボックスに入力し、[次へ] をクリックします。

指定した顧客情報は、ソフトウェアがネットワークに展開されるときにワークステーションに渡されます。既定では、ユーザーはユーザー名を変更できますが、シリアル番号は変更できません。

4. サーバーイメージのネットワーク上の場所を指定します。既定の場所を変更するには、[ネットワークの場所] ボックスに有効なサーバーパスを入力するか、[参照] をクリックして有効なネットワークの場所を参照します。

- ワークステーションが製品の更新を検出してダウンロードできるようにする場合は、[製品の更新]チェックボックスをオンにします。
- 「インストール」をクリックして、サーバーへのファイルのコピーを開始します。「キャンセル」をクリックすると、サーバーイメージの作成をキャンセルするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。キャンセルすると、セットアップが「ロールバック」され、行われた変更のほとんどが元に戻されます。ただし、手動でのクリーンアップが必要な場合があります。
- 「終了」をクリックします。

可能な操作

サーバーイメージをサイレント(または制限されたUIで)作成する	次のコマンドラインを使用します(X:はディスク、ISO、または抽出されたファイルが格納されているディレクトリ、image_locationはサーバーイメージの目的の場所、serial_numberは製品に割り当てられたシリアル番号です)。
---------------------------------	---

```
X:\Setup.exe TARGETDIR="image_location"  
SERIALNUMBER="serial_number" /q /a
```

/q スイッチは、インストール中に表示されるユーザー インターフェースの量を制限するために使用されます。スイッチパラメーターのリストについては、8ページを参照してください。

次のコマンドラインを使用します(ここで log_file はログファイルの場所とファイル名です)。

```
X:\Setup.exe /l "log_file" /a
```

エラーログを作成する	/l スイッチで使用できるパラメーターの一覧については、8ページを参照してください。
------------	--



/q スイッチを使用してサーバーイメージを作成する場合は、細心の注意を払って進めてください。



サーバーイメージの場所を変更するには、新しい場所に新しいイメージを作成する必要があります。ある場所から別の場所にイメージをコピーすることはできません。

サーバーイメージの作成完了前に

サーバーイメージから展開する前に、次の手順を実行することをおすすめします。

ソフトウェア更新プログラムを確認する

ソフトウェアの更新を確認し、必要に応じてイメージに適用します。これにより、ソフトウェアを二度展開する必要がなくなります。詳細については、16ページを参照してください。

イメージをテストする

組織全体に展開する前に、数台のワークステーションでイメージをテストします。

ステージ3:ソフトウェアのインストール



コマンドラインスイッチとパブリックプロパティをお探ですか。6ページの「ソフトウェアのプッシュ型配信」を参照してください。



ソフトウェアをプルするには、ワークステーションユーザー自身がソフトウェアのインストールを実行し、場合によっては独自のインストール・オプションを選択する必要があります。



グループポリシーオブジェクト(「システムポリシー」と呼ばれることもあります)は、Windows ベースのネットワーク上の中央の場所に配置され、各ワークステーションの構成方法を定義します。

ワークステーションにソフトウェアをインストールするには、おもに次の2つの方法があります。

- ユーザー自身がサーバーイメージからワークステーションにソフトウェアをインストール(または「プル型配信」)する
- コマンドラインを使用して、ユーザーに代わってサーバーイメージからワークステーションにソフトウェアをインストール(または「プッシュ型配信」)する

内容

ソフトウェアのプル型配信.....	5
ソフトウェアのプッシュ型配信.....	6

ソフトウェアのプル型配信

ワークステーションユーザー自身は、以下のいずれかの方法を使用してソフトウェアをインストール(または「プル型配信」)できます。

- サーバーイメージの場所を参照し、Setup.exeをダブルクリックして、セットアップの指示に従います。これは、ソフトウェアをプル型配信する一般的な方法です。
- セットアップからソフトウェアをサーバーイメージにインストールするコマンドラインを実行します。通常、この方法はプッシュインストール向けに予約されています(6ページを参照)。

グループポリシーオブジェクトを使用したアクセス許可の管理

ソフトウェアをインストールするには、ワークステーションユーザーに管理者レベルの権限が必要です。このような特権を割り当てるために、Windows ベースのネットワークでは、グループポリシーオブジェクト(または"GPO")(中央ネットワークの場所に格納され、ユーザーがネットワークにログインしたときに各ワークステーションのレジストリ設定を自動的に更新するために使用されるアイテム)を使用します。

ユーザーに管理者レベルのアクセス権を(一時的または永続的に)付与する場合は、グループポリシーエディターを使用してネットワークのGPOを構成する必要があります。

GPOの一般的なヘルプについては、グループポリシーのソフトウェア開発キット(SDK)を参照してください。

Windowsのグループポリシーエディターにアクセスするには

1. [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスを開きます(ショートカットキー:Windowsロゴ+ R)。
2. [名前]ボックスに「gpedit.msc」と入力し、[OK]をクリックします。

ワークステーションユーザーがソフトウェアをインストールできるようにするには

ワークステーションユーザーに対して以下のシステム・ポリシーを使用可能にします。

- [コンピューターの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\常にシステム特権でインストールする
- [コンピューターの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\ユーザーによるインストール制御を有効にする
- [ユーザーの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\常にシステム特権でインストールする

アクセスが制限されたユーザーがソフトウェアにパッチを適用できるようにするには

ワークステーションユーザーに対して以下のシステム・ポリシーを使用可能にします。

- [コンピューターの構成]\[管理用テンプレート]\[Windows コンポーネント]\[Windows インストーラー]\システム特権でインストールされている製品にユーザーが修正プログラムを適用できるようにする



ソフトウェアをプッシュすると、ユーザーの操作を必要とせずにワークステーションに強制的にインストールされます。通常、セットアップのユーザーインターフェースは抑制されます。



通常、コマンドラインスイッチはソフトウェア セットアップの動作を制御し、パブリック プロパティは通常、インストールされているソフトウェアを事前に構成します。

ソフトウェアのプッシュ型配信

ワークステーションユーザーに代わってソフトウェアをインストールする場合は、サーバーイメージからワークステーションにソフトウェアを「プッシュ配信」できます。これを行うには、コマンドラインを次のいずれかと組み合わせて使用します。

- バッチファイル — コマンドを自動的に実行するようにスクリプトするテキストファイル。ヘルプについては、Microsoft の Web サイトを参照してください。
- グループ ポリシー オブジェクト — 中央ネットワークの場所に格納され、ワークステーションの構成方法を定義する項目。ヘルプについては、グループポリシーのソフトウェア開発キット (SDK) を参照してください。
- プッシュテクノロジー — ソフトウェアを自動的にインストールするために特別に設計されたサードパーティツール。ヘルプについては、製造元の Web サイトにアクセスしてください。

前述したように、これら3つの方法はすべて、通常、次を含むソフトウェアインストール コマンドラインを伴います。

- サーバーイメージ上のセットアップファイル
- セットアップの動作を制御するスイッチ
- インストールされたソフトウェアを事前設定するパブリックプロパティ

コマンドラインについて

セットアップファイルの指定	7
スイッチの使用	7

セットアップファイルの指定

コマンドラインで指定する主な項目は、ソフトウェアのインストールに使用する実行可能ファイルです。

このファイルはSetup.exe、ソフトウェアセットアップの実行可能ファイルです。Setup.exeは、サーバーイメージの作成時に選択したインストールパスのサーバーイメージ上にあります。

Setup.exeコマンドラインの基本的な構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe
```

サーバーイメージのパスにスペースが含まれている場合は、Setup.exeコンポーネント全体を引用符で囲む必要があります。

```
"\\サーバー名\空白を含むパス名\Setup.exe"
```

スイッチの使用

ソフトウェアセットアップの動作をカスタマイズするには、さまざまなコマンドラインスイッチを使用できます。

基本構文

スイッチの構文は、スラッシュ (/) の直後に文字または文字列 (/q や /quiet など) が続きます。

スイッチと他のコマンドライン要素 (他のスイッチを含む) は、必ずスペースで区切ってください。

パラメーター

一部のスイッチにはパラメーターがあり、スイッチの設定を調整できます。実際、一部のスイッチでは複数のパラメーターを使用できます。

パラメーターを使用するには、とくに断りのない限り、スイッチの直後に (つまり、スペースを入れずに) パラメーターを入力するだけです。パラメーターを指定しない場合、スイッチはデフォルト設定が使用されます。

使用可能なスイッチ(機能別)

/qによるセットアップUIの表示設定.....	8
/lを使用したログファイルの作成.....	8
再起動の制御.....	10



スイッチは、他のスイッチを含む他のコマンドライン要素とスペースで区切ります。



とくに断りのない限り、スイッチとそのパラメーターの間、または1つのスイッチのパラメーターの間にスペースを入力しないでください。



Microsoft Windows インストーラーテクノロジーのすべてのスイッチの一覧については、Microsoft の Web サイトを参照してください。



/q スイッチを使用してインストールした後、ユーザーがワークステーションでプログラムをはじめて実行したときに、ライセンス契約が表示されるのが普通です。



/q の既定のパラメーターは n です。



/qn の代わりに /quiet スイッチを使用できます。



/qb の代わりに /passive スイッチを使用できます。



/l スイッチの既定のパラメーターは iwearmo です。

/q によるセットアップ UI の表示設定

/q スイッチを使用すると、インストール中に表示されるユーザー インターフェイス (UI) を制限できます。このスイッチを使用すると、ユーザーが自分の登録情報を入力できないようにしたり、特定のインストールオプションを適用したり、"サイレントインストール" (セットアップ中にユーザー インターフェイスが表示されない) を実行したりできます。

パラメーター

/q スイッチには、次のいずれかのパラメーターを指定できます。

パラメーター 影響

n	インストール中にユーザーにはユーザーインターフェイスは表示されません。エラーはログファイルに記録されます(8ページを参照)。これはデフォルトのパラメーターです。
b	ユーザーには、進行状況バーと [キャンセル] ボタンのみが表示されます。ユーザーが [キャンセル] ボタンを押すと、インストールがロールバックされます。
r	ユーザーには、進行状況バーと、インストールに関する情報を含むページが表示されます。ユーザーは、インストールを取り消すことができます。
f	ユーザーには、完全なユーザー インターフェイスが表示されます。

構文

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /q
```

/l を使用したログ ファイルの作成

インストールに関する一般的な情報を、指定したパスとファイル名のログ ファイルに記録する場合は、/l スイッチを使用します。

パラメーター

/l スイッチには、次のパラメーターを指定できます

パラメーター 影響

i	ステータスメッセージをログに記録します
w	致命的でない警告をログに記録します
e	すべてのエラーメッセージをログに記録します
a	開始されたアクションをログに記録します



/logスイッチは、/l*の代わりに使用できます。

パラメーター	影響
r	アクション固有のレコードをログに記録します
u	ユーザー要求をログに記録します
c	初期ユーザー・インターフェース・パラメーターをログに記録します。
m	メモリ不足の警告または致命的な終了に関するエラーメッセージをログに記録します
o	サーバーへのインストール中にハードディスク容量が不足したことによるエラーメッセージをログに記録します。
p	ターミナルのプロパティをログに記録します
v	非常に詳細な情報をログに記録します
*	vを除くすべてのパラメーターを適用します。Vは、すべての情報を1つのログファイルに記録します。

ログファイルの場所とファイル名

/lスイッチは、ログファイルの場所とファイル名という追加のパラメーターを受け取ることができます。「/l」と入力し、その後にスペースを入力し、その後に開始引用符、ログファイルへのパス、ログファイルのファイル名、および閉じ引用符を入力します。コマンドライン構文は次のとおりです(log_fileはログファイルの場所とファイル名です)。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /l "log_file"
```

構文

次のサンプルコマンドラインでは、/lスイッチは、インストール中にファイルC:\install.txtに情報を記録するようにします。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /l "C:\install.txt"
```

/qスイッチと/lの併用

/qスイッチと/lスイッチを一緒に使用できます。次のサンプルコマンドラインでは、/qを使用して、インストール中にユーザーインターフェースを抑制し、指定したログファイルにエラーを記録します。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /q /l "C:\Logs\My_Log.txt"
```

再起動の制御

インストール後に強制的に再起動するには、コマンドラインで /forcerestart スイッチを使用します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /forcerestart
```

また、/norestart スイッチを使用して、インストール後の再起動を抑制することもできます。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /norestart
```

パブリックプロパティの使用

インストールされているソフトウェアをカスタマイズするには、コマンドラインでさまざまなパブリックプロパティを使用できます。

基本構文

パブリックプロパティでは大文字と小文字が区別されます。大文字で入力する必要があり、スペースを含めることはできません。

コマンドラインでパブリックプロパティを使用するには、パブリックプロパティの名前を大文字で入力し、その後で等号 (=) を直接入力し、その後で目的の値を直接入力する必要があります。

```
PROPERTY=値
```

値にも大文字と小文字が区別されますが、大文字と小文字の両方を含めることができます。値には、テキスト文字列 (フィーチャ名など) または数値を指定できます。値にスペースが含まれている場合は、引用符で囲んで、1つの単位として "読み取られる" ようにする必要があります。

```
PROPERTY="スペースを含む値"
```

使用可能なパブリックプロパティ (機能別)

指定した場所へのソフトウェアのインストール.....	11
ソフトウェアの言語モジュールのインストール.....	11
ソフトウェアのネットワーク関連機能の制御.....	12
ソフトウェアのライセンス契約プロンプトの制御.....	12
デスクトップショートカットのインストールの制御.....	12
ソフトウェアのファイル・アソシエーションの制御.....	12
ユーザーリソースの場所の指定.....	12
データベースインポート・プロセスの制御.....	13
ユーザーデータを作成するタイミングの制御.....	13



パブリックプロパティの使用に関する追加情報は、MSDN 開発者プログラムからオンラインで入手できます。



パブリックプロパティを他のコマンドライン要素 (他のパブリックプロパティを含む) から区切るには、必ずスペースを使用してください。



スペースを含む値を引用符で囲んで、一節として "読み取る" ようにします。



Microsoft Windows インストーラーテクノロジーのすべてのパブリックプロパティの一覧については、Microsoft の Web サイトを参照してください。



最良の結果を得るには、場所を引用符で囲みます。



英語(EN)が常時インストールされるため、指定する必要はありません。



複数の言語をインストールする場合は、コンマと言語コードの間にスペースを入れないでください。



FORCELANG がINSTLANGで指定されていない言語モジュールを指定した場合、ソフトウェアはデフォルトで英語になります。

指定した場所へのソフトウェアのインストール

INSTALLDIR パブリックプロパティを使用して、ワークステーション上の特定の場所にソフトウェアをインストールできます。このプロパティの値は、必要なインストール場所です。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe INSTALLDIR="場所"
```

ソフトウェアの言語モジュールのインストール

INSTLANG パブリックプロパティを使用して、ソフトウェアの言語モジュールをインストールできます。通常、言語モジュールには、その言語のユーザー インターフェイスとオフラインヘルプの両方が含まれています。

このプロパティに指定できる値は、次のサポートされている言語の2文字のコードです。

- 繁体字中国語: CT
- オランダ語: NL
- 英語: EN
- フランス語: FR
- ドイツ語: DE
- イタリア語: IT
- 日本語: JP
- スペイン語: ES

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe INSTLANG=コード
```

複数の言語モジュールのインストール

次の例のように、コンマ区切り文字を使用して複数の言語をインストールできます。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe INSTLANG=EN,FR,DE
```

複数の言語モジュールをインストールする場合は、FORCELANG パブリックプロパティを使用してデフォルトモジュールを指定できます。INSTLANG と同様に、このプロパティに指定できる値は2文字の言語コードです。

次の例では、英語、フランス語、およびドイツ語の言語モジュールがインストールされていますが、フランス語がデフォルトとして指定されています。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe INSTLANG=EN,FR,DE FORCELANG=FR
```



IOFF=1でネットワーク関連機能を無効にすると、自動更新とともに製品内メッセージングも無効になります。

ソフトウェアのネットワーク関連機能の制御

IOFF 共通プロパティに値 1 を指定することにより、インストールされたソフトウェアのすべてのネットワーク関連機能を使用不可にすることができます。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe IOFF=1
```

ソフトウェアのライセンス契約プロンプトの制御

ソフトウェアがサイレント・インストールされている場合、ワークステーションユーザーは、最初の起動時に使用許諾契約書(EULA)に同意するように求められます。ワークステーションでEULAプロンプトを抑止するにワークステーションユーザー 共通プロパティに値 1 を指定します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe FORCENOSHOWLIC=1
```

重要: ワークステーションでEULAプロンプトを表示しないように選択した場合は、サーバーイメージの作成時に、ネットワーク上のすべてのユーザーに代わってEULAの条項に同意することになります。

デスクトップショートカットのインストールの制御

デフォルトでは、すべてのワークステーションがソフトウェアのデスクトップショートカットを受け取ります。これらのショートカットのインストールを無効にするには、DESKTOP パブリック プロパティに値 NONE を指定します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe DESKTOP=NONE
```

ソフトウェアのファイル関連付けの制御

OSのバージョンによっては、一部のファイル形式がCorel PaintShop Pro 2023に自動的に関連付けられます。これらのファイルの関連付けを無効にするには、CDS_ASS_IMAGE パブリックプロパティに値 0 を指定します。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe CDS_ASS_IMAGE=0
```

ユーザーリソースの場所の指定

Corel PaintShop Pro 2023は、ネットワークを介してワークステーションユーザー間で共有したり、個人使用のためにローカルに保存したりできるファイル(ワークスペースや画像など)など、さまざまなユーザーリソースをサポートしています。ワークステーションに展開するときに、共有リソースフォルダーとローカルリソースフォルダーの場所を指定できます。



最良の結果を得るには、場所を引用符で囲みます。

共有リソースフォルダー

ワークステーションユーザーにリソースの共有リポジトリを提供する場合は、C_GLOBALREADパブリックプロパティを使用します。このプロパティの値は、共有ネットワークフォルダの目的の場所であり、すべてのワークステーションユーザーがこのフォルダにアクセスできますが、変更することはできません。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe C_GLOBALREAD="場所"
```

ローカルリソースフォルダー

ワークステーションユーザーがCorel PaintShop Pro 2023をはじめて起動したとき、そのユーザーの[ドキュメント]フォルダーにローカルリソースフォルダー(Corel PaintShop Pro\2023)が作成されます。ワークステーションユーザーは、このフォルダへのフル(読み取り/書き込み)アクセスを必要とし、緊急フォルダが使用できない場合は、そのフォルダを指定するように求められます。

ワークステーション上のリソースフォルダーの場所をカスタマイズする場合は、MY_PSP_FILESパブリックプロパティを使用できます。このプロパティの値は、ローカルフォルダの目的の場所であり、このユーザーフォルダに格納されたリソースには、そのユーザーのみがアクセスできます。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe MY_PSP_FILES="場所"
```



最良の結果を得るには、場所を引用符で囲みます。

ユーザーリソースの作成

Corel PaintShop Pro 2023のユーザーリソースの作成の詳細については、ヘルプを参照してください。

データベースインポートプロセスの制御

デフォルトでは、新しいバージョンのCorel PaintShop Pro 2023をインストールすると、以前のバージョンからデータベースがインポートされます。クリーンなデータベースから開始する場合は、次のコマンドを使用してインポートアクションをオフにできます。

```
IGNORE.IMPORTDB=1
```

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe IGNORE.IMPORTDB=1
```

ユーザーデータを作成するタイミングの制御

既定では、アプリケーションをインストールすると、アプリケーションが起動し、ユーザーデータのセットアップが初期化されます。次のコマンドを使用すると、初期化を抑制して、ユーザーが最初にアプリケーションを起動したときに初期化が行われるようにすることができます。

```
SKIPSILENTINIT=1
```

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe SKIPSILENTINIT=1
```

初期化は必ず行わなければなりません。タイミングは調整できます。展開するワークステーションの数が多く、アプリケーションを展開するのに十分な時間がない可能性がある場合は、このコマンドオプションを使用できます。

ステージ 4: インストールの保守

インストールしたソフトウェアは、以下の方法で保守できます。

- 修復 — 技術的な問題を解決するため
- 削除(または「アンインストール」)—最新バージョンのソフトウェアにアップグレードする準備のため

Windows のコントロールパネルを使用してソフトウェアを 1 回だけインストールすることも、コマンドラインを使用してソフトウェアを複数インストールすることもできます。

内容

一台の保守.....	15
複数台の保守.....	15

一台の保守

Windows のコントロールパネルを使用して、ソフトウェアのインストールを削除できます。

ソフトウェアを削除するには

1. ワークステーションにログオンします。
2. コントロールパネルを開きます。
3. Windows 11 または Windows 10 (64 ビット) では、[プログラム] をクリックし、[プログラムのアンインストール] リンクをクリックします。
4. リストから Corel PaintShop Pro 2023 を選択します。
5. [アンインストール/変更] をクリックします。

複数台の保守

コマンドラインを使用して、ソフトウェアを修復、更新、または削除できます。

プッシュ型配信を使用してコマンドラインを展開することにより(6ページを参照)、ソフトウェアの複数台のインストールを保守できます。

コマンドライン関数

ソフトウェアの修復.....	16
ソフトウェアの更新.....	16
ソフトウェアの削除.....	16

ソフトウェアの修復

コマンド行スイッチ /reinstall を使用して、指定したサーバーイメージからソフトウェアを再インストールして修復できます。

コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /reinstall
```

ソフトウェアをサイレントに修復するには、/qn スイッチを含めます。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /qn /reinstall
```

ソフトウェアの更新

アップデートをインストールする必要がある場合は、Corel サポートにお問い合わせください。

ソフトウェアの削除

コマンドラインスイッチ /x を使用して、ソフトウェアを削除できます。コマンドライン構文は次のとおりです。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /x
```

サイレント削除

コマンドラインに /q スイッチを含めると、ソフトウェアをサイレントに削除できます。

```
\\サーバー名\パス名\Setup.exe /x /q
```



/uninstall スイッチは、/x の代わりに使用できます。



/q のパラメーターの一覧については、8 ページの「/q によるセットアップ UI の制限」を参照してください。

Corel® PaintShop® Pro 導入ガイド

Copyright © 2022 Corel Corporation. 無断転載を禁じます。

製品仕様、価格、パッケージ、技術サポート、および情報(以下「仕様」)は、英語版をベースにしています。他のすべてのバージョン(他の言語バージョンを含む)の仕様は異なる場合があります。

情報は「現状有姿」で提供され、明示または黙示を問わず、商品品質、満足のいく品質、商品性、または特定目的への適合性の保証、または法律、制定法、商慣習、取引の過程などによって生じる保証または条件を含むがこれらに限定されない、その他の保証または条件はありません。提供された情報の結果またはその使用に関するすべてのリスクは、お客様が負うものとしします。COREL は、収益または利益の損失、データの損失または損傷、またはその他の商業的または経済的損失を含むがこれらに限定されない、間接的、偶発的、特別、または結果的な損害について、たとえ Corel がかかる損害の可能性について知らされていたか、または予見可能であったとしても、お客様またはその他の個人または団体に対して一切の責任を負わないものとしします。また、COREL は、第三者によるいかなる請求に対しても責任を負いません。お客様に対する COREL の責任の総額は、お客様が素材を購入するために支払った費用を超えないものとしします。一部の州/国では、結果的または偶発的な損害に対する責任の除外または制限が許可されていないため、上記の制限がお客様に適用されない場合があります。

Corel、Corel ロゴ、ナレッジベース、PaintShop、PaintShop Pro および WinZip は、カナダ、米国、およびその他の国における Corel Corporation および/またはその子会社の商標または登録商標です。記載されている他のすべての製品名および登録商標および未登録商標は、識別目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の独占的財産です。